Title:日本経営教育学会.ec4 Page:1

会報 No.231

第231号紙面案内
第２面･･･第30回中部部会報告
第３面･･･平成16年度第３回関東部会報告・第４回関東部会開催のご案内
第４・５面･･･産学交流シンポジウム特集

グローバル人材の育成と教育

会長　飫冨　順久

謹んで新年のお慶びを申し上げます。本学会は昨年10月８日～10日まで九州国際大学で開催された全国大会で学会創立25周年を迎えることができました。このことは、なにをおいても創設者、故山城 章先生に感謝申し上げるとともに、あらためて山城 章先生のご業績に対して敬意を表する次第であります。

また、今日まで先生が提唱されました実・学一体の人材教育・育成に関する研究、具体的には①経営体の諸活動に関する実践的研究、②日本的経営及び国際的経営の研究、③経営者・管理者の実践能力を育成するための経営教育－この三つの目的を継承し、ご尽力されてこられた多くの先輩諸兄に深く敬意を表する次第であります。

経営学関連学会が増加傾向にある今日、創立以来、年２回の全国大会を開催している学会は希少価値があるものの、開催校の確定及び統一論題のテーマや報告者の選定など運営上の苦労も増えて参りました。

とくに実学一体を標榜している本学会の統一論題は常に、社会からの要請に応えるべきタイムリーなものにしなくてはなりません。2000年度とくにこの１、２年グローバル企業に相応しい人材の育成が叫ばれております。Newsweek（2004・12・８号）はグローバル企業の人材の条件として６点をあげております。それは、①問題解決能力と分析能力、②個人の存在感、③コミュニケーション能力、④リーダーシップ、⑤イニシアチブ、⑥チームワークであり、グローバル人材の要件は１つに知識、２つにスキルに加えて、３つにリーダーとしての性格を指摘しております。世界に対する意識、業務上のチャレンジに喜びを感じ、常に新しいことを学ぼうとする向上心など、従来の経営教育上のプログラムに修正を加える必要性が出てきており、環境の変化や価値観の変容を先取りする経営教育を研究し実践する必要性を実感しております。

Title:日本経営教育学会.ec4 Page:2

第30回中部部会報告

（平成16年11月６日　於　中京大学）

辻村宏和（中部大学）

今回の中部部会は、“第30回”記念ということから飫冨順久会長、小椋康宏前会長にもご出席していただけるということで、櫻井克彦部会長や副部会長の辻村宏和をはじめとした開催関係者一同によるプロデュースにも、いつも以上の気合いが込められていた。第一報告が静岡産業大学・杉山三七男氏による「管理者と強迫観念－人間関係論の経営教育－」（コメンテーター：中部大学・辻村宏和）で、第二報告は、中部産業連盟執行理事で経営コンサルタントとして著名な佐々木元氏による講演「プロセス・マネジメントの新展開－マネジメントの第三の波－」（司会：愛知産業大学・増田茂樹氏）で、ともに本学会趣旨と第30回記念にふさわしい報告ラインナップとなった。

第一報告、杉山氏の意図は、学説史においては古典の定位置を与えられ顧みられることの少ない人間関係論を再考し、そこから経営教育の理論的基盤を論及しようとする野心的なものであった。経営学説を丹念に追究して導かれた命題「現在の経営学は、管理者の経営学ではなく、管理スタッフの経営学ということになり…」は衝撃的であった。それは管理過程学派→人間関係論→バーナード＆サイモン理論と辿り、管理者の苦悩に接近すべく“再度”人間関係論に立ち返ろうとする論法は魅力に富み、本学会アイデンティティーを示唆するものであった。

第二報告、佐々木氏の講演内容はさすがに現場密着型研究の比較優位性が如何なく発揮されており、トヨタがいまクローズアップされている理由を、「トヨタ方式の戦略観」「トヨタの経営的メカニズム」を説明していく中で論及する氏の分析アングルは新鮮で、本学会会員によるトヨタ研究を一層誘発するものとなるであろう。氏の守備範囲は広く、管理会計論にまで及んだその議論は、モノグラフ（個別領域研究）に明け暮れる純粋培養型経営学者には挑戦的ですらあり、それは、飫冨会長、小椋前会長から直々に質問が寄せられたことからも窺えた。配布されたレジュメも実に資料的価値の高いもので、参加者プレミアムとなったことであろう。

成功裡に終わった部会の後は懇親会が開催校で催され、有意義な団らんのひと時をもってして記念すべき中部部会の幕を閉じた。

祝 第30回　中部部会　開催

昨秋、本学会の中部部会が第30回の部会を開催いたしました。大きな節目となる部会開催であり、飫冨順久会長と小椋康宏前会長も出席されました。

今回は特別に中部部会の副部会長である辻村宏和先生に報告記の執筆をお願いいたしました。

Title:日本経営教育学会.ec4 Page:3

平成16年度第３回関東部会報告

山崎秀雄（和光大学）

平成16年11月13日（土）、立教大学にて今年度第３回関東部会が開催され、約40名の参加がみられた。

第一報告は，徳永潤二氏（和光大学）による「1990年代後半以降の国際資金移動におけるアメリカの役割」、司会兼コメンテーターは山中伸彦氏（尚美学園大学）であった。第二報告は、島田浩志氏（金融情報ネットワーク運営協会事務局長）による「多メディア多チャンネル時代における放送ソフト制作会社の自立的発展に関する考察」、司会兼コメンテーターは河合博子氏（立命館アジア太平洋大学）であった。

それぞれにおいて非常に有意義かつ新しい観点からの報告がなされ、また報告後には活発な質疑応答が行われた。

その後休憩を挟み、亀川雅人氏（立教大学）の司会のもと「社会人教育・日本のMBA教育のあり方について」をテーマにシンポジウムが行われた。パネリストとして、金雅美氏（和光大学）のほか、５名のMBA取得者および現役のビジネス・スクール生にご参加いただいた。本部会において、日本のMBA教育に関するシンポジウムは今回が２回目であったが、MBAコースにおける実践的な教育とはどのようなものか、また、MBA取得者側・企業側双方において習得した知識・スキルを実際に企業でどう活用するかなど、よりいっそう踏み込んだ深い議論がなされた。

部会終了後には懇親会が開催され、20余名の参加者が会員同志の交流を深めた。

関東部会開催のご案内

関東部会長　亀川雅人（立教大学）

○開催日時：平成17年３月19日（土）14：00～17：00（受付：13：30～）

○会　　場：立教大学池袋キャンパス（池袋駅西口徒歩10分）

○参 加 費：¥1,000（部会参加費のみ）

◇第１報告　14：00～14：55

テーマ：大卒若年社員のキャリア意識の現状－キャリア指向と自己効力感－（仮題）

報告者：山中伸彦氏（尚美学園大学）・山口一美氏（文教大学）

◇第２報告　15：00～15：55

テーマ：未　定

報告者：杉本昌昭氏（和光大学）

◇第３報告　16：00～16：55

テーマ：行政体、自治体における経営教育に関する一考察

報告者：山本毅氏（システム構造研究所）

Title:日本経営教育学会.ec4 Page:4

特集　産学交流シンポジウム

第７回産学交流シンポジウム（産学交流研究集会改め）報告

産学交流委員会委員長　萩原道雄

日　　時：平成16年11月18日（木）13時～18時30分
場　　所：コンファレンススクエア M＋（三菱ビル10F）
大テーマ：「変革・教育・人材」
論　　題：［その１］～プロフェッショナル、源流の探求と人材の教育～
参 加 者：シンポジウム：50名　交流懇親会：35名

飫冨会長は開会挨拶で、産学交流シンポジウムは日本経営教育学会の理念「実・学一体」を実現するための重要な場であり、今回は「変革・教育・人材」を大テーマと定め３回シリーズでテーマを論じていくことになったが、それにふさわしい２人の先生を迎えることができ喜ばしい限りであると述べた。

第７回シンポジウムは大テーマを論ずる３回シリーズの１回目として「プロフェッショナル、源流の探求と人材の教育」を論題に定め、アフラック（アメリカンファミリー生命保険）創業者・最高顧問、大竹美喜先生及び東京都立短期大学教授、宮下清先生にご講演をいただいた。大竹先生は変化の早い時代における経営のポイントは未来を構想する力を持つ知的人材の育成であり、リスクに対して勇気を持ってチャレンジできる環境づくりであると話された。また宮下先生はプロフェッショナルとは何かを述べられ、加速する知識社会における組織内プロフェッショナルの自律性の発揮、価値ある専門性、ネットワークの活用の重要性を話された。

その後、会場は４グループに分かれ、それぞれのグループごとに委員の先生方にも参加していただき、自己紹介を行い互いに理解した上で、講演を聞いた感想やら意見やらを交換、疑問点を質問にして、宮下先生と意見交換を行った。大竹先生は所要のため講演後お帰りになったが、お帰りになる前に質疑を行っていただいた。小嶌正稔副委員長の巧みなコーディネートにより、会場は活気に満ち、かなり突っ込んだ議論もすることができた。

17時からは会場をグリル丸の内に移して交流懇親会を行い、宮下先生にも参加をいただき、さらに産学の交流を深めあった。

なお、産学交流シンポジウム３回シリーズの２回目は札幌において来春開催を計画している。

Title:日本経営教育学会.ec4 Page:5

第７回産学交流シンポジウム参加記

姚堅強（東洋大学大学院）

2004年11月18日に東京駅近くにある三菱ビルの10階で、第７回産学交流シンポジウムが開かれた。今回のテーマは「プロフェッショナル、源流の探求と人材の教育」である。講演は、大竹美喜氏と宮下清先生によってなされた。

アメリカンファミリー生命保険会社を創業し発展させた大竹氏は、創業経緯と経営理念などを紹介された。現在のように知的経済へ移行している時代の中では、その変化を敏感に感知するプロフェッショナル経営者がもっとも必要であり、「変化するものは生き残る」と述べられた。また、「日本はそのような人材育成に関して、まだまだ多くの問題がある」とも指摘された。さらに、大竹氏は自社の社員に対する教育と会社の将来のビジョンをも出席者に興味深く説明していただいた。その後、東京都立短期大学のプロフェッショナル教育がご専門の宮下先生には、「加速する組織内プロフェッショナル」をテーマにした講演をしていただいた。この講演の中で、宮下先生はプロフェッショナルに対する問題認識や基礎概念、加速する知識社会におけるプロフェッショナルの仕事と役割など、ご自分の研究と成果を詳しく説明された。宮下先生は「経営の知識重視への移行は不可避である。その知識を活用できるかどうかは、人の能力にかかっている。すなわちプロフェッショナルの役割である」という主旨を述べられた。

休憩の後、大会に出席した方々を四つのグループに分けて講演に関する討論会が行われた。各グループの方々は積極的に自分の意見と認識を発言された。最後にグループの代表から講演者に質問し、講演者からは丁寧な解答をいただいた。残念ながら、大竹氏は仕事の都合により、討論会には参加できなかった。大会の最後の懇親会では食事を楽しみながら、意見と名刺を交換し、有意義な１時間を過ごした。

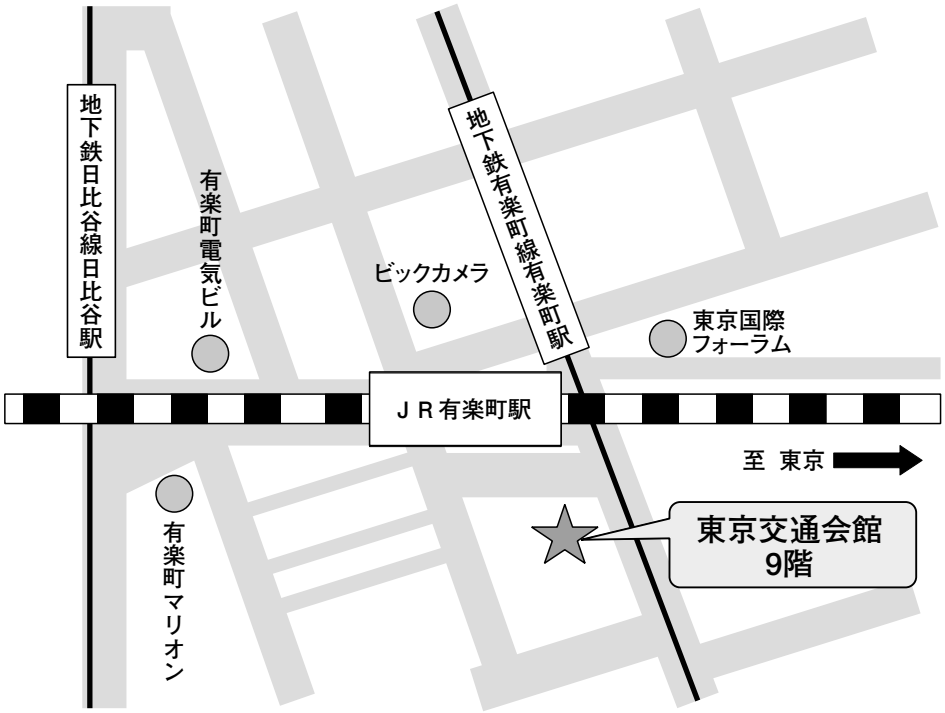
Title:日本経営教育学会.ec4 Page:6

学会事務局移転のお知らせ

このたび、財団法人企業経営通信学院の移転に伴い、本学会の事務局も移転いたしました。新しい住所等は以下の通りです。

メールアドレスとホームページアドレスに変更はありません。詳細は学会ホームページでもご案内しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

住所：〒100-8448　東京都千代田区有楽町2-10-1　東京交通会館9Ｆ
財団法人企業経営通信学院内　日本経営教育学会事務局（担当：佐久間里加）
TEL：03-3282-6211　FAX：03-5220-4869
e-mail：name @ yutori.or.jp　http://www.j-keieikyoiku.jp



●Ｊ　Ｒ：有楽町駅（京橋口、中央口・銀座側）出口の斜め前に立つビルです。
●地下鉄：有楽町線　有楽町駅（出口Ａ８）
丸ノ内線・日比谷線・銀座線　銀座駅（出口Ｃ９）

編集後記

新春号をお届けします。今年も会報の充実に邁進して参ります。会員の皆様の叱咤激励をお待ちしております。よろしくお願いをいたします。　加藤巖・杉浦慶一

発行　日本経営教育学会
東京都千代田区有楽町2-10-1　東京交通会館9F　〒100-8448
財団法人企業経営通信学院（担当：佐久間）
TEL　03-3282-6211　FAX　03-5220-4869
e-mail：name @ yutori.or.jp